

TOEFL_ibt で 100 点を目指す

受講者に TOEFL/TOEIC 準拠のテストを実際に受験してもらい、受講者の英語力を診断し、個別的な学習計画を設計する。TOEFL の場合、狭義での英語力だけではなく、判断力、論理性、社会的知識、創造的発想力等も必要になるから、そのスコアを知ることが当該者の総合的な能力を判定する有力な手段ともなる。なお、受験センター等で受験済みの受講者(6ヶ月以内)の場合にはそのスコア証明書をもって学習計画を設計する。

TOEFL_ibt	25 点以下	2 年間コース
TOEFL_ibt	26 点～50 点	1 年 6 ヶ月コース
TOEFL_ibt	51 点～70 点	1 年コース
TOEFL_ibt	71 点～90 点	1 年コース
TOEFL_ibt	91 点以上	6 ヶ月コース

留意点 一連の英語講座は、たんに英語力の向上だけを目的とするものではない。日常生活全般において、英語コミュニケーションを習慣づけるとともに、英語でさまざまな社会問題を考え、自らそれへのリソリューションを発信できるようにすることを目的としている。英語で考え、英語で発信することで、世界のさまざまなシーンで自由に活躍できる人材の基礎基盤形成を目指している。

留意点 近年、外国語学習に関連させて、「1 週間で話せるようになる」、「聴くだけで英語でコミュニケーションできる」などといった宣伝を耳にするが、これは誇大も甚だしい。確かに、hearing は不可欠であるが、ネイティブから尊敬される英語力を体得するためには、徹底したアウトプットの練習、的確で上品な発音、相手の心を捉える上品で知的な表現力などが必要になる。さらに、長期間にわたる日常的な鍛錬に加えて、世界で通用するビジネスマンとしての教養、知識がなければならない。英語を学習しながら、持続的な努力習慣、上品で魅力ある知性、会話の基盤となる知識・経験等を付加することがこれらの講座の目的となっている。

Listening Session

① ゆっくりニュース聴読講座(必須) (第 1quarter~第 2 quarter)

この講座は、たんに英語力の向上のみを目的とするものではない。提供される音声ファイルは、この 10 年間程の期間に世界で注目されたさまざまな話題に関するものであり、これを聴き、設問(TOEFL_ibt で 110 点をやや超える水準の設問)に解答(英語、日本語)することで、世界の社会問題、経済問題、ビジネス・トレンド、地球環境、社会慣行、等々に関する知識、関心を高めるというネライをもっている。たとえば、合衆国で近年話題となっている自然食品(organic foodstuff)農業に関する課題音声文を契機として、その後個別的に送付される音声英語をつうじて合衆国の農業について多面的に学習することで、わが国農業の将来的方向性を模索させる。

通常の 70%程度の速度での世界のニュース・アナウンス(約 2 分間)を収録した音声ファイルと問題をメールで送信。

受講者は Listening と Shadowing とを少なくとも 30 回以上繰り返し、指定された期日までに解答をメールで送信。

まず、Dictation についての正答を送付。受講者は自己採点をして聴き取れなかった語句を再度学習し、修正した日本語訳と設問への解答を送付する。ほぼ満点に近い解答が得られた段階で、Topic に関連した事項に関する音声ファイルを送信し、世界のさまざまな動向について英語で理解を深め、グローバルに活躍できる素養を身に付ける

Dictation、Translation、Shadowing、Q&A、En-rich vocabulary found

期間	全 35 回、3 ヶ月~6 ヶ月
密度	3 日に 1 回程度
場所	メールによる解答提出と正答送信
義務	期日までに提出
評価	自己採点→評価→課題提案→再提出→関連知識の拡張

②日常会話講座(全員必須) (第 1quarter～第 3 quarter)

受講者の英会話力に対応させて、初級～上級ごとに用意した英会話の音声ファイルと問題とを送信。受講者は、英語と日本語との双方で解答する。実際の会話、ドラマ、映画等のコンテンツを利用する。ここでも、ありきたりの会話シーンではなく、ビジネスに直結した会話・討議・交渉等の場面を想定したコンテンツを提供する。また、海外の人々との会話を通じて一定の尊敬を得るために必要な素養、教養、趣味、文化、芸術等の話題を厳選して提供する。さらに、英語による表現も、ネイティブを納得させる英語固有の表現法、相手に応じた表現の使い分け、ネイティブでもできない知性とかユーモアなどを感じさせる表現などを学ばせる。他方、英語圏諸国で一般的に使われている slang 表現も場合によっては必要になるので、可能な限り最新の slang も教授する。

基本的にはネイティブが録音した音声を送信し、それへのもっとも適切な受け答えを解答させる。受講者は Listening と Shadowing とを少なくとも 30 回以上繰り返し、指定された期日までに解答をメールで送信。送付された解答について問題点・改善点等を指摘し、正答を送付する。参加者が送付する解答の内容に応じて、個別的に付加課題の学習を義務づける。聴力、発音、話題事項の理解力、英語表現力等をきめ細かくチェックし、個別的な学習指導を実施する。一定の水準をカバーした参加者については、後掲のネイティブとの直接的な会話、発音矯正講座、英語表現講座等への参加を許可する。

期間	初級 3 ヶ月、中級 4 ヶ月、上級 3 ヶ月
密度	3 日に 1 回程度
場所	メールによる解答提出と添削・評価・課題・正答送信
義務	期日までに提出
評価	自己採点→評価→課題提案→再提出

③ 社会問題報道聴読講座(必須) (第 3 quarter)

重要な社会問題に関する報道(3~5分程度)を収録した音声ファイルと設問とを送信し解答させる講座。課題はグローバルな問題、社会で話題となっている問題等を厳選する。設問は、やや高度なものとなり TOEFL、GMAT、AWA 等に準拠する。ここでも、英語力だけではなく、世界で生起する今日的な社会問題について自らの意見を発信でき、議論することができるだけの知識、情報感度、問題意識、判断力、論理性、情報発信力、ネイティブから尊敬される知的な英語表現力等の培養に努める。

受講者は、Listening と Shadowing とを少なくとも 30 回以上繰り返し、指定された期日までに解答をメールで送信することで聴力、発音等の能力を高める。また、設問への解答にあたって、自ら情報を検索し、的確な解答を英文で作成することで、関連知識、英語表現力、問題解決能力等を体得する。

期間	2ヶ月(全12回)~3ヶ月
密度	1週間に1回程度
場所	メールによる解答提出と添削・評価・課題・正答送信
義務	期日までに提出
評価	自己採点→評価→課題提案→再提出

④数値に強くなる hearing・reading 講座(必須) (第3 quarter)

英語の日常会話、あるいはビジネスシーンで頻繁に登場する数値表現は、聴き取りにくく、また聞き間違えるととんでもない失敗に繋がる。加えて、欧米における度量衡単位は日本のそれと異なる。この講座では、数値が頻繁に登場するシーンを収録した音声ファイルを用いて、英語の数値表現に馴れるとともに、数値把握能力、数値計算能力の向上にも役立たせることをネライとしている。

さらに、英文の数値・統計データを読み取り、解釈し、そこから何らかの傾向値、推移を即座に理解する能力の強化にも努める。

期間	3ヶ月(全22回)
密度	1週間に1回程度
場所	メールによる解答提出と正答送信
義務	期日までに提出
評価	自己採点→評価→課題提案→再提出

Reading Session

① Short Story 講座(全員必須) (第 1 quarter)

USA の primary school, junior high school で利用されている英語の短編小説を読み、設問に英語で答えさせる講座。設問はやや難度が高く、解釈には社会的諸問題、歴史、文化等に関する一定の知識が必要となる。合衆国の学校では、これらの教材を用いて生徒の感受性、読解力、社会性、歴史動態、社会変革、道徳、倫理等を育てようとしている。この講座では、短編小説原文を送付する前に、音声ファイルのみを送付して英語聴読力を高め、その後原文を配賦する。

英語力(読解、表現、文法)だけではなく、感受性、探求力、論理性、歴史認知、社会的関心などの強化にも貢献する講座となっている。設問の水準はかなり高く、相当の思考力、洞察力、知識が必要であるが、ここでは「考える」ことの習慣づけを指向し、誰も気付かなかった事象の本質的意義に接近しようとする知的好奇心の具備を目指している。

解答は、日本語・英語の双方とし、日本語表現能力、英語の Writing 能力の向上にも寄与させる。受講者が送信した解答について、問題点、課題、視点、必要情報等を指摘し、再度の探求を求め、場合によっては双方向的な議論も展開する。そうしたプロセスを通じて、参加者のウイークポイントを探るとともに、その埋もれた能力を発掘し、それをさらに伸張させる方途についても指導する。

また、双方向性 SNS を利用して、解答を考える際のヒントを提供するとともに、思考のプロセスがどのようなものか、論点の価値序列化(何がより大切で、本質的なのか)の方法などを学んでいく。

期間	3ヶ月(全10回)
密度	1週間に1回程度
場所	メールによる解答提出と正答送信
義務	期日までに提出
評価	自己採点→評価→課題提案→再提出

②Debate session on the Economic and Social Problems(全員必須) (第 2 quarter)

最新の社会・経済問題について、1,000~1,500words 程度の英文を読み、設問に解答させる講座。Topics は多岐にわたるが、ビジネスマンとして知悉しておかねばならない問題を厳選する。設問は、英文を読んだだけでは解答できず、受講者が主体的にリサーチし、独自のソリューションを構築する必要がある。

課題は、最近の社会、経済、ビジネスに関わる Topics から選んで出題する。解答は、日本語・英語の双方とし、日本語表現能力、英語の Writing 能力の向上にも寄与させる。設問はリサーチ、分析、提案、創造的発想等が必要な高水準なものであり、考え、発想する能力が必要となる。課題にはソリューションを求める設問が必ず含まれており、世界のマーケット・シーンで求められる創造性を養う。同時に、受講者には「意見記事」に対する反論を求め、堅牢性の高い反証をあげて論理的に自論を展開する総合力を段階的に強化する。

期間	3ヶ月(全12回)
密度	1週間に1回程度
場所	メールによる解答提出と正答送信
義務	期日までに提出
評価	自己採点→評価→課題提案→再提出

Writing Session

① schedule & diary 講座(必須) (第 1 quarter～第 4 quarter)

行動予定表および日々の出来事を簡単に記載した diary を所定のフォーマットに書き込むことで、日々の生活を英語漬けにして、英語表現に習熟する基礎的講座。受講者は、1 週間、1 ヶ月の行動予定表を英語で作成するとともに、日々の出来事を毎日、英語で記載する。こうして、日常生活レベルから英語に親しむとともに、Writing 能力、英語語彙力強化を指向する。

加えて、行動予定や行動記録を記述することを通じて、自己の有り様を客観的に自己認知し、高い期待価値水準で設定した未来の自己像との比較で自己行動・自己認知を自己評価することで反省、課題設定、自己管理、日々の目標再設定等の competency を高めることも目的としている。ある結果をもたらした節目(turning point)が何処にあったのかを知ることによって、次のステージにおける意思決定の質的転換(ルーチンワークから革新的行動へ)をはかる。行動・意思決定におけるグレッシャムの法則から如何に抜け出せるのかを自ら考える思考パターンを形成していく。

作成にあたって、まず日本語で記述しそれを英文にするという手法は絶対に採用しない。記述前段階から全て英語で考えたり、構想を練ったり、経験事実を反芻するという習慣の確立を目指している。予め作成した to do list、holiday、diary のフォーマットを配賦し、to do list については年間・1 ヶ月・1 週間ごとに、holiday についてはプライベートな余暇時間計画を 1 ヶ月・1 週間ごとに、diary については毎日、定められた様式、字数で記載する。

なお、プライバシー保護、個人情報保護については最大限配慮するとともに、その漏洩を極力防止する措置を講じる。また、記述にあたっては固有名の記載を避ける。

期間	6 ヶ月～2 カ年
密度	毎日
場所	メールによる提出
義務	1 週間ごとに簡易行動記録と行動予定表とを提出
評価	評価→問題点、課題提案→再提出

②日本を世界に発信する(必須) (第 2 quarter)

日本のさまざまな文化、伝統、習慣、流行、自然・風土、社会諸相、科学技術、ビジネス、観光資源等の話題について、受講者が自ら情報を収集し、それを英語で表現する講座。たんに、日本語を英語にするのではなく、伝えるべき情報を自ら考え、独自の分析を加えて英文にする。英文記述力のみならず、自己を育んできたこの国の文化等に関わる知識の培養にも貢献する。

社会的なコミュニケーションは、相互がもつ情報の質量と相手に対する親和性とでその正否が決定される。したがって、日本人であるビジネスパーソンは、自国のさまざまな情報を提供することで、日本及び当該者への関心を吸引しなければならない。グローバルイゼーションとは、ある意味で自己がもつ豊富な知的財産を自由に伝達することで成立するものであるから、まずは、自国の特質を如何様に英語その他の外国語で伝達するか、その能力の如何によると言っても過言ではなからう。

この講座では、指定されたジャンルに関して受講者が英文でその紹介記事を作成する。英単語にはない事象、概念をどのようにして英語で伝達するか、その表現法も学んでいく。何よりも、単なる紹介文ではなく、相手に感心・興味をもってもらうための訴求法、表現力等が重視されるし、こうした学習を通じて日本を再確認することが要点となっている。

優れた情報の場合には、双方向性 SNS や一般の SNS にそれらを掲載する(情報の内容次第で匿名扱いとする)し、社会的評価を仰ぐ。それらを通じて、世界的視野で日本を客観化することができるし、逆に、日本を知る契機ともなる。

期間	3ヶ月
密度	1週間に1回程度
場所	メールによる解答提出と正答送信
義務	期日までに提出
評価	自己採点→評価→課題提案→再提出

Vocabulary Session

① TOEIC750/TOEFL60(能力別編成) (第 1 quarter~第 2 quarter)

TOEICで750点、TOEFL_ibtで60点レベルの語彙力を習得するための自己学習講座。テストで頻出する word・idiom を収録したテキストを配賦し、受講者は適宜、自己学習を積み重ねる。語彙を音として体得するために、重点用語を含めた文章の音声ファイルも配賦する。

受講者の学習進捗状況に対応させて、理解を確認するテストをメールで配信し、到達点を評価する。

② TOEIC850/TOEFL75(能力別編成) (第 1 quarter~第 2 quarter)

TOEICで850点、TOEFL_ibtで75点レベルの語彙力を習得するための自己学習講座。テストで頻出する word・idiom を収録したテキストを配賦し、受講者は適宜、自己学習を積み重ねる。語彙を音として体得するために、重点用語を含めた文章の音声ファイルも配賦する。

受講者の学習進捗状況に対応させて、理解を確認するテストをメールで配信し、到達点を評価する。

③ TOEIC950/TOEFL90(能力別編成) (第 2 quarter~第 4 quarter)

TOEICで950点、TOEFL_ibtで90点レベルの語彙力を習得するための自己学習講座。テストで頻出する word・idiom を収録したテキストを配賦し、受講者は適宜、自己学習を積み重ねる。語彙を音として体得するために、重点用語を含めた文章の音声ファイルも配賦する。

受講者の学習進捗状況に対応させて、理解を確認するテストをメールで配信し、到達点を評価する。

期間	それぞれ1ヶ月~6ヶ月
密度	自己学習(毎日が望ましい)
場所	テキスト(PDF)、音声CDの配賦と定期テスト(会場)
義務	自己学習、月1回程度のテストを実施(会場)
評価	TOEIC/TOEFL 模擬試験により差分評価

④ビジネス最新用語講座(必須) (第2 quarter～第4 quarter)

最新のビジネス、IT、ファイナンス、経済、経済政策、市場等に関する用語を徹底して習得する講座。基本 2,000 語に派生単語(熟語)、応用文を関連させて習得し、TOEFL_ibt で 110 点獲得に必要な 15,000 単語を目指す。この講座でも、たんに単語の丸暗記ではなく、用語を英語ベースで理解することを通して、最新の世界的なビジネス展開の動態を理解していくことを主旨としている。

さまざまなツールを駆使するが、基本ビジネス用語 2000 を機械的に覚えるのではなく、その内容を英語で説明できるようにする。能力別にコンテンツを提供するが、基本的には、ジャンル別基本用語配賦→英語で解説文作成→日本語解説文配賦→英語解説文の推敲を繰り返す。

月に 1 回のペースで、テキスト(PDF)をメールで配信する。原則として自己学習であるが、定期的(月に 1 回程度)に英語の音声ファイルを聴いて解答する形式のテストを実施する。テストの結果次第では受講期間が短くなったり、あるいは長くなったりする。

期間	6ヶ月～1年
密度	毎日の自己学習+月1回のチェック問題
場所	自己学習
義務	自己学習、月1回程度のテストを期日までに提出
評価	自己採点→評価→課題提案→再提出

Speaking & Conversation

①発音矯正・習熟講座(必須) (第1 quarter)

基礎的な発音練習のための音声ファイルを送信し、マニュアルに順って自己学習する。そもそも、母音が5つしかない世界的にも希有な言語である日本語に慣れ親しんできた日本人は、15~30程ある母音を用いる外国語の習得は極めて困難なことである。ネイティブとのスムーズな対話・情報交換をするためには、何よりも正確な発音とスピードとが必要になる。中間母音、リエゾン、ローマ字綴りとは異なる発音、エロキューション等を一定の水準まで引き上げるためには、口唇の筋肉使用、口蓋の利用(響く音)、的確な抑揚(エロキューション)を繰り返し自己学習して体得するしかない。

この講座では、日本人がもっとも不得意とする発音の基礎を徹底して学習するが、その際、listeningに加えてspeakingというアウトプット練習を重視する。

受講者は、送付された音声ファイルについて、listening、shadowing、speakingを毎日、繰り返し実施する。自己学習は、ある意味で孤独な闘いであるが、それに勝利しなければ高い成長は望めない。こうした自己学習の積み重ねを継続的に実施することは、自己統制力を高め、自己耐性を高めるという副次的果実をもたらす。

期間	1ヶ月
密度	毎日の自己学習
場所	送付された音声ファイルによる徹底した自己学習
義務	自己管理による自己学習と課題への解答
評価	後掲の会話力(表現力)鍛錬塾でチェック

②超簡単英会話表現講座(必須) (第2 quarter)

10words 以内で構成される簡単な英会話文であるが、日本の学校教育では習わなかったネイティブの基本表現を学ぶ講座。年代層やシーンによって異なるので一概には言えないが、日本の学校教育(とくに中学校)で習得する英会話文での表現は、実際にはあまり使われることはない。たとえば、please sit down. という表現はやや失礼になる。また、please go ahead. と after you! あるいは Let me putt out.(ゴルフ用語だが日常でも使うユーモアある表現) とでは相手に伝わるニュアンスに大きな隔たりがある。ここでは、どのようなシーン・相手の場合にはどのような表現が適切なのかを基礎的に学んでいく。

シチュエーションごとに音声ファイルを送付し、受講者は listening、shadowing、speaking を繰り返す。定期的に送られてくる応用問題に解答して、実際に使えるだけの学習水準に達しているかどうかをチェックする。この講座でも、受講者の学習目標達成度に応じて受講期間を柔軟に調整する。この講座はチェーン科目であり、これを修了しない限り、次の講座を受講することはできない。

期間	2ヶ月～4ヶ月
密度	3日に1度、音声ファイルとチェック問題送信
場所	メールによる解答提出と正答の送信
義務	期日までに提出
評価	自己採点→評価→課題提案→再提出

① 社会・経済問題徹底討議講座(必須) (第 2 quarter～第 4 quarter)

Economist 紙での意見報道を題材として作成したディベート・セッション・シナリオをもとに情報収集、問題意識の絞り上げ、具体的なソリューションの提起、討議、再提案等を全て英語で実施する。

近年、世界で話題となっている経済・社会・ビジネス上の問題について、相互に対立する提言を英文で紹介し、どちらの立論に賛成であるか、またその理由は何か、理由を補完する実証・論証をあげて自説を展開させる講座。

まず、話題を集めた特定問題に関する専門家の対立する立論を英文を配賦し、賛否を問うとともに、その理由を列挙してもらう→立論者の相手側に対する再反論を英語で配賦→自説の修正・強化→読者投票の結果と関連解説英文を配賦。

当該問題に関する基礎的知識、リサーチ力、分析力、論理性、等に加えて英語での表現力を強化する。

ここでの参加受講者の自説展開については、双方向 SNS や BBD においても公開し、相互批判、相互評価を活発に展開するとともに、スパイラル学習する組織のあり方についても考えてもらう。

期間	10ヶ月～1年6ヶ月
密度	1ヶ月に1回、特定の社会・経済問題について debate
場所	メールによる自説提出と討議
義務	期日までに提出
評価	自己採点→評価→課題提案→再提出

②Skype/Yahoo Messenger 実践講座(必須) (第3 quarter～第4 quarter)

Skype あるいは Yahoo Messenger 等を用いて、ネイティブと実際に会話・討議を行う。1回 30分程度を週に3回程度実施する。ただし、時差の都合があるため実施時間帯は深夜、あるいは早朝になるケースもある。受講者の都合に配慮するが、UKで8～9時間、USAで14時間の時差を考えると受講者の自由な選択の幅は大きくはない。時差の関係から、日本および東南アジア諸国に在住するネイティブ・スピーカーも登用するが、いずれも大卒以上の educational background、職業経験、日本への関心、TOEFL とか GMAT への理解を条件とする。

ネイティブが即興的に提起する時事問題、社会問題、経済問題、ビジネス問題等について、説得力・論理性・妥当性ある解答を即座に Speaking できる能力を身に付ける。また、tutor には毎週報告書をメールで提出してもらう。

TOEFL_ibt で 90 点以上のスコアを目標とし、受講期間は到達水準によって柔軟に調整するが、6ヶ月を超える受講については費用の自己負担も考える。PC、HD、高速ネット回線、ヘッドセット、通信費等は受講者の自己負担とし、実習の録画を収録した DVD の提出を義務づける。

期間	3ヶ月～6ヶ月
密度	1週に3日、1回30分
場所	自宅
義務	所定時間拘束
評価	応答するネイティブの報告書